

## 鎗戸シコクシラベ(遺伝資源)希少個体群保護林



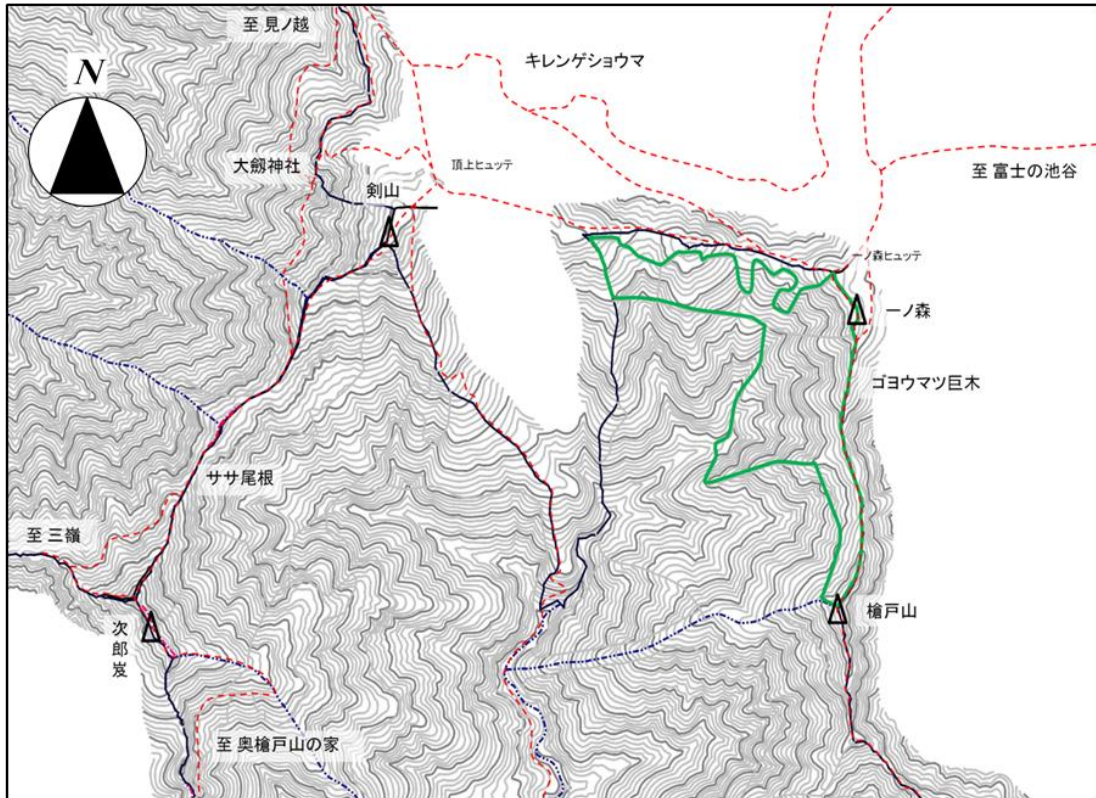
日本百名山の1つで修験道の山としても知られる剣山(1,955m)と一ノ森(1,879m)との稜線の南側に位置し、コメツガやシコクシラベ、ヒメコマツ(ゴヨウマツ)、ウラジロモミなど四国では限られた高標高地域にしか見られない亜高山帯の針葉樹林が広がっています。

シコクシラベは、シラビソの変種とされ、四国の亜寒帯性の植生を代表し、剣山や石鎚山、笹ヶ峰周辺等の海拔 1,700m 以上に、ダケカンバとともに局地的にあらわれます。

剣山系の険阻な稜線に分布するこの森は、樹相の厳しさと相まって、四国では希少な高山性の雄大な景観をつくり上げています。

【保護林マップ】

# 鎗戸シヨクシハ<sup>®</sup> (遺伝資源) 希少個体群保護林マップ



参考コースタイム: 見の越駅  $\xrightarrow{0:15}$  リフト 西島駅  $\xrightarrow{0:40}$  劔山  $\xrightarrow{0:40}$  保護林  $\xrightarrow{1:40}$  西島駅





## 【上空から見た保護林】



剣山から一ノ森の稜線付近ではシコクシラベの純林を見ることができます。  
(2012年10月5日撮影)

## 【保護林内に生育する樹木】

ヒメコマツ（ゴヨウマツ）は、標高の高い所（ブナ帯から亜高山帯）に分布し、葉が5本ずつつくためゴヨウマツとも呼ばれます。

当保護林ではシコクシラベやコマツガに混ざって生え、胸高直径115cmの巨木も確認されています。



### ▲ヒメコマツの巨木

林内には、写真のようなヒメコマツの巨木が生育していますが、ニホンジカにより樹皮が剥がれる被害が増えており、ボランティアの方々や請負によりラス巻を行っています。徳島森林管理署が平成24年12月に一ノ森山頂付近のヒメコマツの枯死木2本から生長錐でコアを取り、年輪を調べた結果、生長量は約1mm/年ということが分かりました。胸高直径60cmの木であれば樹齢約300年と推定されます。



▲ヒメコマツの葉と若い球果 (2011年7月撮影)



▲コマツガの葉と球果 (東赤石にて撮影)

コマツガの球果はツガと異なり、球果の付け根が曲がりません。





▲コメツガの若枝に生える毛（東赤石にて撮影）

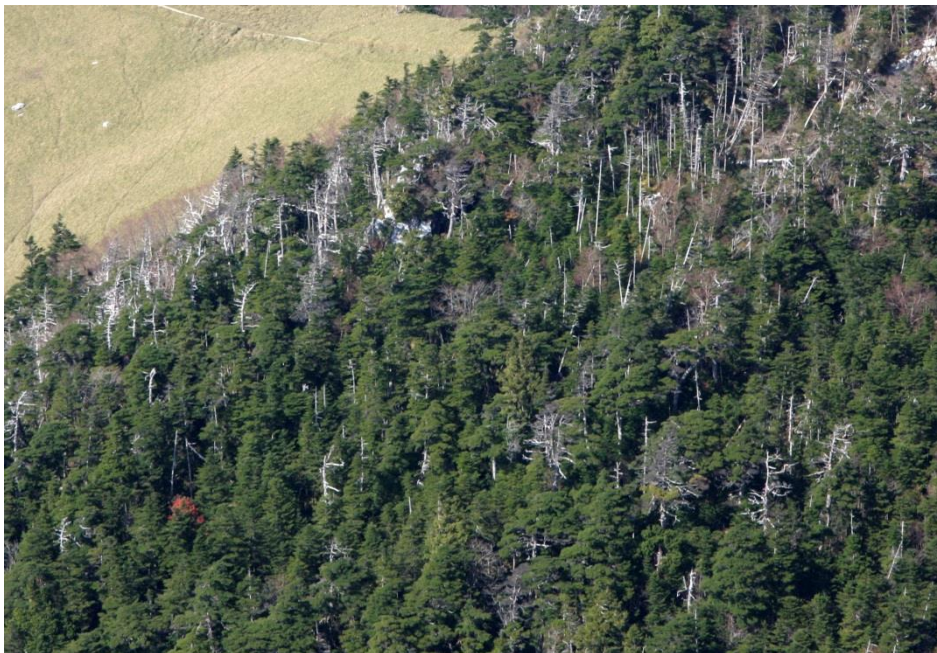
コメツガはツガと異なり毛が生えています。ツガの特徴は横荒山保護林をご覧ください。

### 【シコクシラベの特徴】

シコクシラベ (*Abies veitchii* var. *reflexa*) はシラベの変種とされ、最終氷期に南下したシラビソの遺存植物とされています。

分布は剣山系（剣山、一ノ森周辺）や石鎚山系（二ノ森、石鎚山周辺）、笹ヶ峰、の標高約1,700mより上部の限られた箇所にものみ生育しています。そのため徳島県および高知県では絶滅危惧II類、愛媛県では準絶滅危惧種、に記載されています。

鎗戸保護林のように純林をつくることもあり、寿命はあまり長くなく、次々と更新します。また、コメツガなどが生育している箇所でも林床にシコクシラベの稚樹が生え、倒木などで上部に空間が出来ることで大きく成長し、シコクシラベの森になることが知られています。

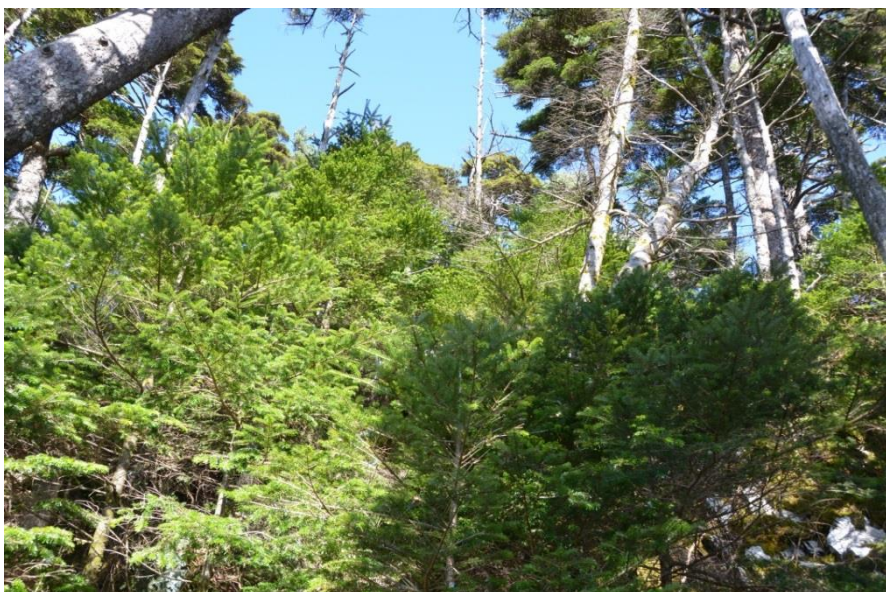


▲鎗戸保護林内のシコクシラベ林

寿命が短いため枯れ木も目立ちます。林内には一部コメツガ、ヒノキ、ウラジロモミ等の針葉樹やダケカンバ、ナナカマド等の広葉樹もわずかに混じります。

平成21年度から平成24年度にかけて徳島森林管理署が行った調査では、胸高直径4cm以上のシコクシラベが保護林内で11,212本確認されました。密度は2,650本/haにもなります。そのうちニホンジカによる被害木は1,181本、約1割にも上るため、ラス巻による保護を行いました。

シコクシラベ以外の針葉樹では、コメツガが94本、ヒメコマツが73本、ヒノキが23本、イチイが1本、ウラジロモミが71本確認されています。



▲倒木や枯木跡に稚樹が勢いよく育ちます。



▲シコクシラベの球果（石鎚山系生態系保護地域内にあるニノ森にて7月撮影）  
球果は長さ5から6cmで上向きに付きます。